こたえ 空き家と町の未来

月 日 名前

発展（はってん）②

空き家と町の未来

わたしの住む町には、人の住んでいない家が増えている。登校のとちゅうにも、雑草がのび放題になった家が何けんもある。町の人に話を聞くと、「火事や事故が心配だ」という声が多かった。わたしは、空き家をただの問題としてではなく、町の資源として活用すべきだと考える。

その理由は二つある。第一に、空き家を活用すれば、町に人が集まる場所を作れるからである。となりの地区では、古い家を改装して、子どもと高れい者が交流できる居場所を開いた。そこでは宿題をする子どもに、地域のお年寄りが声をかける姿が見られるという。

第二に、新しく建物を建てるより、資源のむだを減らせるからである。すでにある建物を生かせば、取りこわしで出るごみも、新しい材料も少なくてすむ。

もちろん、活用には課題もある。持ち主が遠くに住んでいて連らくが取れない場合や、建物が古く、修理に多くの費用がかかる場合である。しかし、こうした課題は、市役所が窓口となって持ち主と希望者を結びつけたり、住民が協力してそうじや修理を行ったりすることで、少しずつ解決できるのではないだろうか。

空き家は、かつてだれかの暮らしを支えてきた場所である。わたしたちの世代が知えを出し合えば、再び人の集まる場所によみがえらせることができると、わたしは信じている。

1 筆者の主張を、本文の言葉を使って書きましょう。

空き家を町の資源として活用すべきだ。

2 となりの地区では、古い家を改装して何を開きましたか。交流できる 居場所

3 第二の理由に合うものはどれですか。

ア 資源のむだを減らせる。
イ 家賃が安くなる。
ウ 観光客が増える。

4 活用の課題を解決する方法として挙げられていることを、一つ書きましょう。

市役所が窓口となって、持ち主と希望者を結びつける。

おうちの方へ

- 主張→理由→反論への答え→まとめ、という組み立てに注目しましょう。
- この文章は学習用に作ったもので、特定の町の話ではありません。

© きりんドリル kirindrill.com